

(埼玉県委託事業)

令和6年度

薬局のかかりつけ機能強化推進事業

報告書

認知症対応薬局の推進

令和7年3月

一般社団法人埼玉県薬剤師会

目 次

1. 背景	P. 1
2. 目的	P. 1
3. 薬剤師認知症対応力向上研修会の実施	P. 1
4. アンケート調査の実施	P. 2
5. アンケート調査の結果	P. 2
6. 考察	P. 7
※ 資料	P. 8
・ 令和 6 年度薬剤師認知症対応力向上研修会資料（別添 1、2、3、4）	
・ 令和 6 年度薬剤師認知症対応力向上研修会アンケート	

1. 背景

平成 27 年 1 月に厚生労働省が策定した「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）では、認知症の人の意思が尊重され、出来る限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることが出来る社会の実現を目指している。

また、令和 6 年 1 月 1 日には、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会（共生社会）の実現を推進することを目的として、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行された。

対面による服薬指導や医薬品販売、店頭でのさまざまな相談など、高齢者と接する機会が多い薬剤師が、認知症の疑いがある人に早期に気づき、かかりつけ医等と連携して対応するとともに、認知症の人の状況に応じた服薬支援や指導等を適切に行い、認知症の人の生活を支えることが重要になってきている。

平成 28 年度以来、「埼玉県薬剤師認知症対応力向上研修会」を毎年開催してきたが、「患者のための薬局ビジョン」に掲げる「かかりつけ薬剤師・薬局」の充実及び普及を推進する観点から、認知症に対応できる薬剤師の育成強化を図るため、今年度も引き続き具体的な事例検討（スモールグループディスカッション）を含めた研修会を実施することとした。

2. 目的

薬局薬剤師が認知症の疑いのある人の徴候にいち早く気づき、家族や医療機関につながぐことで、かかりつけ医をはじめとする他職種と連携して患者や家族を支える役割を果たすことを目的に、認知症に対応できる薬剤師の育成強化を図る。

3. 薬剤師認知症対応力向上研修会の実施

下記のとおり実施した。

研修内容は、一般社団法人埼玉県医師会から推薦された認知症サポート医と埼玉県薬剤師会所属の薬剤師を講師とした講義形式の研修に加えて、実践形式の研修としてグループワーク（事例検討）を実施した。

対象者は、県内で勤務（開設を含む）する薬剤師とし 43 名が修了した。

令和 6 年度薬剤師認知症対応力向上研修会

日程：令和 6 年 11 月 17 日（日）12：30～16：35

形式：埼玉県県民健康センター 大会議室 C

内容：(1) 基本知識及び地域・生活における実践について（90 分）（別添 1）

自治医科大学附属さいたま医療センター 講師 崎山 快夫

(2) かかりつけ薬剤師の役割について（30 分）（別添 2）

（一社）埼玉県薬剤師会 社会保険委員会 委員 政氏 良太

(3) 事例検討（薬局業務における実践）（100 分）（別添 3、4）

（一社）埼玉県薬剤師会 社会保険委員会 委員 下村 英紀

4. アンケート調査の実施

令和 6 年度薬剤師認知症対応力向上研修会受講者を対象に、研修会の効果を検証するためのアンケート調査を実施した。(資料 1)

本研修のアンケート調査は受講者 43 名に対して実施したが、回収されたアンケートは 44 枚であった。

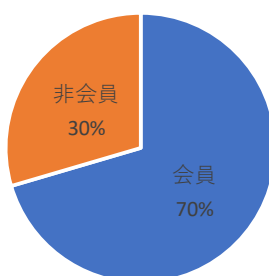
アンケートは無記名であり、誤って回収されたアンケートを特定できないため、除外せず集計結果に反映させた。

5. アンケート調査の結果

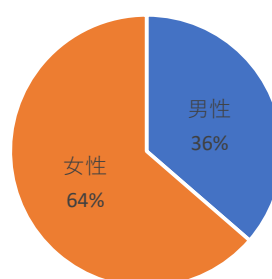
Q1.埼玉県薬剤師会会員区分

会員	31
非会員	13

1.埼玉県薬剤師会会員区分



2.性別



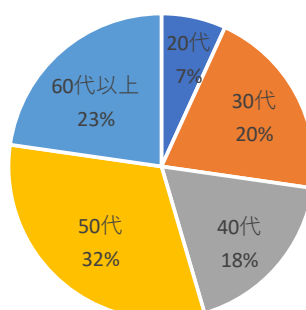
Q2.性別

男性	16
女性	28

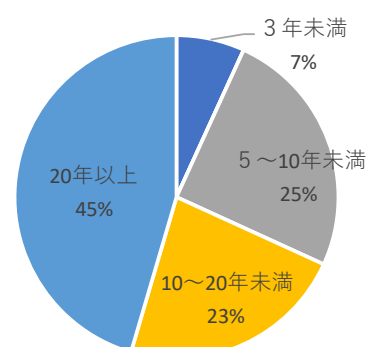
Q3.年代

20代	3
30代	9
40代	8
50代	14
60代以上	10

3.年代



4.薬剤師としての経験年数

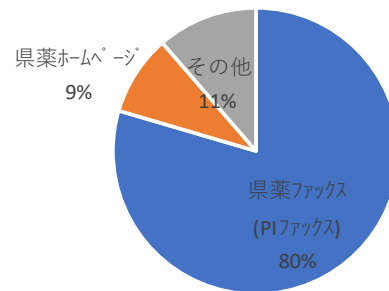


Q4.薬剤師としての経験年数

3年未満	3
3～5年未満	0
5～10年未満	11
10～20年未満	10
20年以上	20

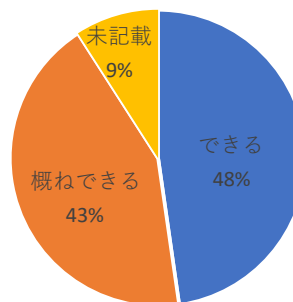
Q5.この研修を何で知りましたか？

県薬ファックス	35
県薬ホームページ	4
その他	5



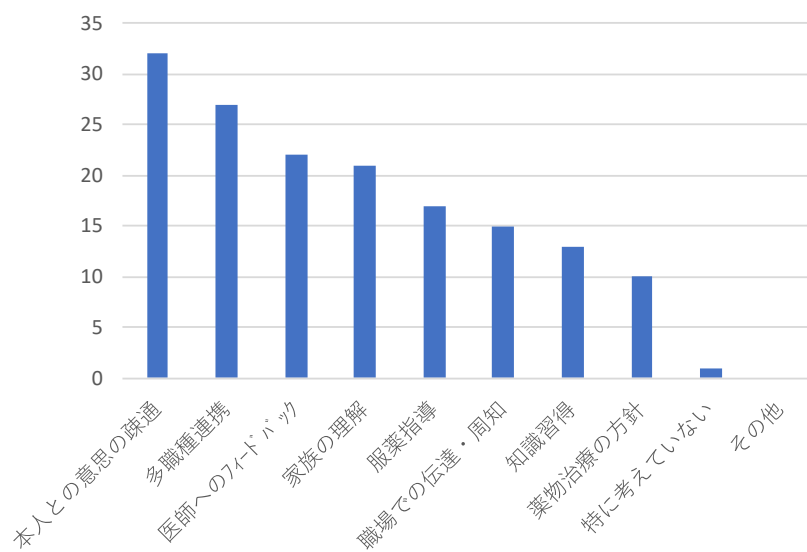
Q6.本日の研修を明日からの業務に役立てることができますか？

できる	21
概ねできる	19
できない	0
未記載	4



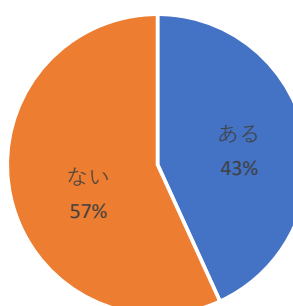
Q7.本日の研修を受講し明日からどのような行動をしようと考えていますか？ (複数回答可)

本人との意思の疎通	32
多職種連携	27
医師へのフィードバック	22
家族の理解	21
服薬指導	17
職場での伝達・周知	15
知識習得	13
薬物治療の方針	10
特に考えていない	1
その他	0



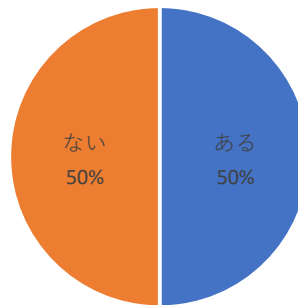
Q8.地域ケア会議に参加したことがありますか？

ある	19
ない	25



Q9.認知症サポーター養成講座を受講したことがありますか？

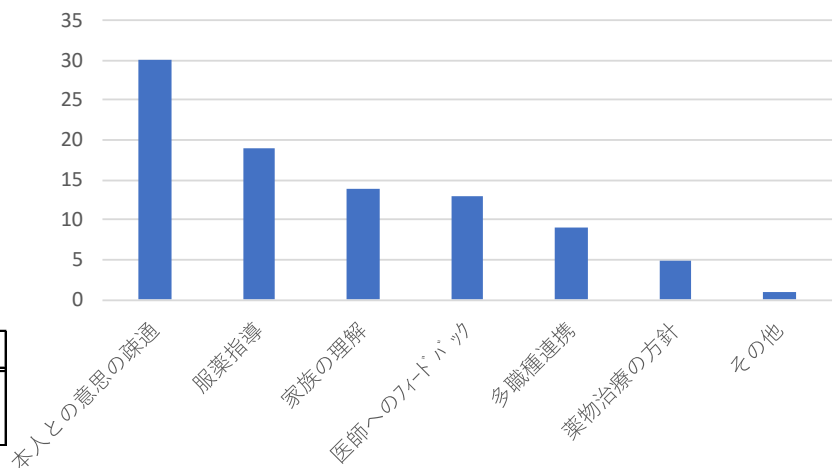
ある	22
ない	22



Q10.認知症患者の対応で苦慮することは何ですか？(複数回答可)

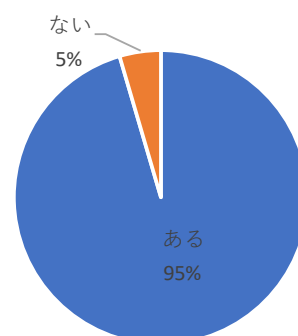
本人との意思の疎通	30
服薬指導	19
家族の理解	14
医師へのフィードバック	13
多職種連携	9
薬物治療の方針	5
その他	1

※その他
薬局内での対応だけだと生活がみえづらい (独居の方など)



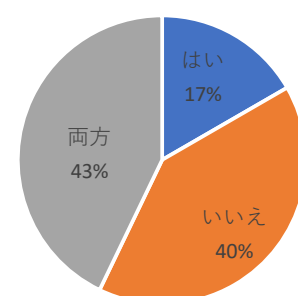
Q11.日常業務で認知症患者に対応したことはありますか？

ある	42
ない	2



Q12.その患者はかかりつけですか？(Q11.「あり」回答 n=42)

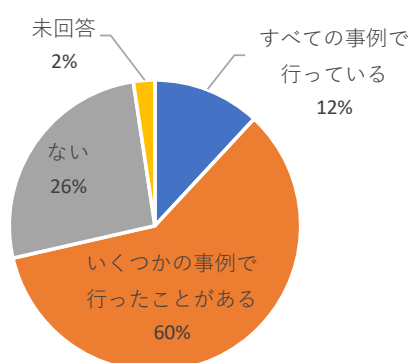
はい	7
いいえ	17
両方	18



Q13.認知症患者の対応に際し、多職種との連携、調整を行ったことがありますか？

(Q11.「あり」回答 n=42)

すべての事例で行っている	5
いくつかの事例で行ったことがある	25
ない	11
未回答	1

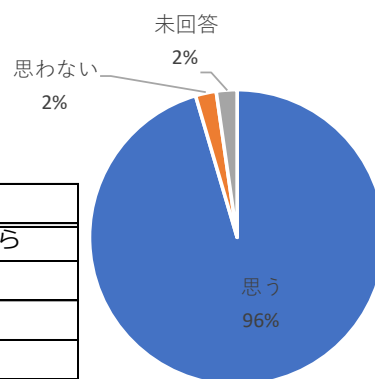


Q14.日常の業務で認知症患者に対応した事例(成功例や困っている事例など)

1	本人のみで来局した際の薬の説明が困ってしまう (30代男性)
2	ご家族の付き添いがありがたく感じました (20代女性)
3	症状が改善したにも係わらず服用続行していた薬剤があり。Drとの相談により減薬に (60代以上男性)
4	在宅医療の患者さんで、ケアマネージャーによる (60代以上女性)
5	認知症疑いの患者に対して、どのように多職種連携を進めていけばいいのかわからないことがある (40代男性)
6	早めに地域の包括をよんだこと (50代女性)
7	独居で高齢になってから転居されて来た方で、要介護認定を受けていらっしやらず、支援を必要とされている方。本人の了承を得て、地域包括支援センターに薬局から連絡した。 (40代女性)
8	アドヒアランス不良 コンプライアンス不良による認知症発見、投薬後帰宅した後薬をもらって多いとTELあり。認知症患者は1人で来局することは少なく介護者と来局が多い。 (50代男性)
9	「薬がない」と言って来局される。薬の管理は家族だが家族が投薬時常につきそってくれるわけではないので、患者と薬局、患者と家族でつながっても薬局と家族がつながれない。状況把握するのが難しいはあります。 (30代女性)
10	独居の在宅患者さんで、訪問看護師さんと訪問時間を合わせて服薬状況・生活状況を共有してコンプライアンス向上できた。 (40代女性)
11	どうしてもBZD系薬剤が処方される。 (50代女性)
12	かかりつけ薬剤師としてフォローしたり、在宅訪問につなげていきフォローしたりしたいがキーパーソンが誰かわからなかったり、その状況で患者同意を取ってよいのか、悩むことがある。 (40代女性)
13	何年も1日に3回、一包装した薬を服用していたが「今まで朝しか薬をのんだことはない」と服薬を納得されなかった (50代女性)
14	服用方法を説明しても理解できない (30代女性)
15	家族との連携により、残薬等、コンプライアンスが良くなった。薬局より、家族のTELとよい方向へむかった (60代以上女性)
16	ケアマネとの連携 (30代男性)
17	近親者の理解不足 (60代以上)
18	排泄状況の確認ができなくて困っている。(絶対調ですといいつつ、便秘もしくは下痢などがわからない) (50代女性)

Q15.まだ、認知症対応向上研修を受講していない薬剤師に受講を進めようと思いますか？

思う	42
思わない	1
未回答	1



思う(理由)
色々な知識のある薬剤師とグループワークができて、新しく知ることもあったから
患者様の生活の質改善
在宅業務では必要な知識だと思う
役立つから

思わない(理由)
未回答

Q16.研修会の感想

- 1 意見ありがとうございました (50代女性)
- 2 オンラインでの開催が良いです (30代男性)
- 3 普段得られない知識が得られました (20代女性)
- 4 患者様がその方らしく生活出来るようになるには、多種間の連携がいかに大切かと勉強になりました (60代以上女性)
- 5 認知症の方々について症状や症状を学ぶ事ができ、明日以降の業務に役立てることができました。 (30代女性)
- 6 認知症は今後増加するので、対応力が必要 (60代以上女性)
- 7 認知症患者は増えていくと思うので、対応力の向上は今後求められることが多くなるため (40代男性)
- 8 認知症患者さん1人に対してかける時間がかなり長くなっています。勉強にはなりましたが、現実にはなかなか大変なのかなと感じました。 (50代男性)
- 9 長かったと思います… (50代女性)
- 10 現在担当している訪問患者さんで、幻覚幻聴のため薬の調整をしている方がいらっしゃり、参考になりました。 (40代女性)
- 11 テキストを読んでいるだけならあまり意味がない。質問時間がない。
- 12 グループワークはたいへん参考になり有意義だった。 (50代男性)
- 13 今日の研修の内容を、職場や地域で共有できればと思っています。 (30代女性)
- 14 GWが楽しいです。普段他の薬局薬剤師との情報共有が少ないので、同じように在宅業務や外来業務している時の考え方や困り事などが分かったり共感できたりするので。 (40代女性)
- 15 グループワークが大変有意義でした (30代男性)
- 16 グループディスカッションで様々な意見がきけて、勉強になりました。ありがとうございました。 (50代女性)
- 17 知らない事が多く、知ることが出来よかった (50代女性)
- 18 患者さんの1人1人のバックボーンが違うので、マニュアル対応のようなものではできません。経験が重要ですね。 (60代以上女性)
- 19 認知症の概念がひろがった。ピア活動などの活動は知らなかったなので、これから参加したいと思った。 (40代女性)
- 20 明日からさらにがんばろうと思った。 (50代女性)
- 21 1人の患者さんに対して問題と思われることを多人数ではなし合う機会はとてこれから業務に役立つと思いました (50代女性)
- 22 知識を得るだけでなく、成功事例を元にしたグループワークをやることで、自分の考え方や知識で提案するのに足りないものがあることがあってよかった。 (30代女性)
- 23 医師へのトレーニングレポートを積極的に行いたいと思いました。 (60代以上女性)
- 24 様々な方向から「認知症」の話を聞くことができてよかったです (50代女性)
- 25 グループワークは良い企画だと思います (60代以上男性)
- 26 GWにて他の方の視点や知識が共有され、非常に良い刺激となりました (40代男性)
- 27 良かった。 (60代以上男性)
- 28 新しいカリキュラムであると聞いたので研修を受けました。つないでいく多職種や団体などの新しい情報やかかりつけ薬剤師として認知症患者に対してできることやるべきことのアップデートをすることができました。 (60代以上男性)
- 29 改めて、気づかされることも多く学びが多かった。今後の業務に生かしたい。 (50代女性)
- 30 有意義な研修でした。新しい知見及び復習にもなりました。 (60代以上女性)

6. 考察

研修参加者については、昨年度は薬剤師としての経験年数が10年未満が6割であったが、今年度は3割程度だった。年齢層でも昨年度は20代から30代の薬剤師の参加者が6割であったが、今年度は3割程度であった。研修会を知るきっかけでは、8割が県薬FAXであった。今年度も昨年度同様SNSの周知は行ったが、20代から30代の薬剤師が減少したことについては、分析が必要であると考ええる。

明日からの業務に役立てることが出来るかという問いに対し、出来ないという回答が0件であったので、研修会が何らかの行動変異につながったと考えられる。また、具体的な行動に関しては、本人との意思疎通、多職種連携、医師へのフィードバック、家族の理解が上位に挙げられており、この研修の目的である「気づき・つなぎ・支える」が受講者に十分伝わっていることが示唆された。

研修会の感想では、参加者にとって知識習得の満足度が高く、講義に加えてグループワークを取り入れた構成は効果的であったと考える、一方で、「時間が長かった」「現実にはなかなか大変と感じた」との意見もあり、今後内容についても検討する必要がある。

今回、定員100名に対し参加者が40名だった。研修会の感想に、30代男性より「オンラインでの開催が良い」との意見があり、参加者が少ない、20代から40代を取込むには、オンラインなどの開催方法も検討する余地がある。

昨年度に引き続き、埼玉県全ての薬局で認知症患者に対応できるよう、1薬局1名は同研修を受けた薬剤師が在籍する体制を目指して、継続的に研修会を開催し、かかりつけ薬剤師・薬局として認知症患者や家族を支えられる薬剤師を育成していく必要がある。

令和 6 年度埼玉県薬剤師認知症対応力向上研修会
アンケート

あてはまるところにチェックしてください。

- ## 1. 埼玉県薬剤師会会員区分

☐ 会 員 ☐ 非会 員

- ## 2. 性別

☐ 男性 ☐ 女性

- ### 3. 年代

☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代以上

4. 薬剤師としての経験年数

☐ 3 年未満 ☐ 3 年～5 年未満 ☐ 5 年～10 年未満

☐ 10 年～20 年未満 ☐ 20 年以上

5. この研修会を何で知りましたか？

☐ 県薬ファックス(PIファックス) ☐ 県薬ホームページ ☐ その他

6. 本日の研修を明日からの業務に役立てることができますか？

☐ できる ☐ 概ねできる ☐ できない

7. 本日の研修を受講し、明日からどのような行動をしようと考えていますか？（複数回答可）

☐ 本人との意思の疎通 ☐ 家族の理解 ☐ 医師へのフィードバック ☐ 服薬指導

□ 多職種連携 □ 薬物治療の方針 □ 知識習得 □ 職場での伝達・周知

☐ 特に考えていない ☐ その他()

8. 地域ケア会議に参加したことがありますか？

☐ ある ☐ ない

9. 認知症サポーター養成講座を受講したことがありますか？

☐ ある ☐ ない

10. 認知症患者と対応で苦慮することは何ですか？（複数回答可）

☐ 本人との意思の疎通 ☐ 家族の理解 ☐ 医師へのフィードバック ☐ 服薬指導

☐ 多職種連携 ☐ 薬物治療の方針 ☐ その他()

11. 日常常務で認知症患者に対応したことはありますか？

☐ ある ☐ ない(「ない」の場合、問 15 へ)

12. その患者はかかりつけですか？

☐ はい ☐ いいえ ☐ かかりつけの患者とそうでない患者両方

13. 認知症患者の対応に際し、多職種との連携、調整を行ったことがありますか？

☐ すべての事例で行っている ☐ いくつかの事例で行ったことがある ☐ ない

14. 日常の業務で認知症患者に対応した事例（成功例や困っている事例など）

〔

〕

15. まだ、認知症対応力向上研修を受講していない薬剤師に受講を進めようと思いますか？

☐思う ☐思わない(理由:)

16. 研修会の感想

〔

〕